

研修担当より

内部・外部研修では、職員の資質向上や情報共有を目的として実施しています。

※コロナ感染拡大に伴い、外部研修の参加は主催者側の感染症対策を考慮しながら参加しています。

内部研修

9月 生活介護利用の手引き読み合わせ

10月 制度の理解

11月 感染症予防

12月 虐待防止マニュアル読み合わせ

1月 身体拘束防止マニュアル読み合わせ

外部研修

7月 強度行動障害研修



8月 てんかん基礎講座

舎人あかしあ園 ノーリフトはじめます。「持ち上げない介護・抱え上げない看護」

皆さん、「ノーリフト」はご存じでしょうか？ノーリフトとは、「支援時に持ち上げる・抱き上げる・ひきずることをしない」ことです。

これまで、舎人あかしあ園ではノーリフトを推進してきました。人の手のみの力に頼った介助を行うと、利用者に二次被害（皮膚損傷、全身のこわばりなど）が起こる可能性があることが分かってきました。移乗業務は、職員の腰痛や事故につながる極めて危険度が高い業務の1つです。ノーリフト研修を通して、正しい機器操作を学び事故防止はもちろん、利用者の方にとっても、職員にとっても、安全で心地よく、質の高い支援が提供できる舎人あかしあ園を目指して参ります。（記 河瀬）

参考資料:2020年 竹の塚あかしあの杜内部研修
ノーリフトについて
～持ち上げない・抱えない介助支援～

防災より

9月27日 地震・火災想定避難訓練を行いました。新型コロナウィルス感染症予防の為、ソーシャルディスタンスを保ちながらの実施となりました。

改めて避難経路の確認や転倒の危険があるものの確認、災害時にどのように行動したら良いのかを確認することができました。

東日本大震災から11年、阪神淡路大震災27年が経ち、いつ東京にも大きな災害がくるか分かりません。今後も舎人あかしあ園では、皆様の安全がしっかりと守れるよう、災害に備えた訓練を実施していきたいと思います。（記 長岡）



編集後記

夏の暑さからだんだんと外が気持ちいい時期になってきましたね！外を散歩しているとドングリを見つけ、秋の近づきを感じます。これから秋、冬に向けてイベントもしていくので今後の人舎人も楽しみしてくださいね！（記 柳川）

※誌面の個人情報（写真・氏名）の掲載については、ご本人・ご家族の同意を得ています。



ひと人舎ひとと



社会福祉法人あいのわ福祉会

Social Welfare Juridical AINOWA Organization

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-25-11 TEL03-3854-1741 FAX03-3854-1742

社会福祉法人あいのわ福祉会 舎人あかしあ園

発行責任者 市原純哉

第31号

令和4年9月30日発行

主任より

「善き思い、善き言葉、善き行動」Good thoughts, good words, good deeds.

ご存じの方も多いと思います。2018年に公開された映画「ボヘミアン・ラプソディ」で、主人公であるフレディ・マーキュリーの父親のセリフです。（ちなみに、それに対してのフレディの言葉は、「それでいいことあったの？」という言葉でした。）絶対に見るべきと勧められ、妻と二人で鑑賞したのですが上映冒頭に「善き思い、善き言葉、善き行動 Good thoughts, good words, good deeds.」を聞いて、とても印象に残ったセリフです。映画鑑賞した以降、私が心がけていることでもあります。

皆さんも心に残った言葉などあるのではないでしょうか？今から25年以上も前になります。私が社会人になりたての頃、仕事や友人関係、家庭環境などで悩んでいました。解決するために本を読んだり、ビジネスセミナーに参加したこと覚えています。「今を変えたい。」、「もう少し上手に仕事をこなしたい。」自分なりに苦しんで、もがいていたのだと思います。（この時には、心許せる先輩に「変わろうと少しでも心がけていれば、前進・後進しながらでも変わることはできるよ。」と教わりました。）

「思い」が「言葉」となり、「行動」となる。その全てに「善き」がつきます。

善き=人に優しくあれ、正直あれ、誠実あれ、謙虚あれ

福祉の世界に入って「心から誰かのために、何かできないか？（思い）」という人に多く出逢います。もちろん相手がいてのことですので、（言葉や行動）価値観が合わずに衝突してしまうこともあります。お互いが純粋に相手のことを考え、両者が一緒になって解決していくことが、これからは必要になっていくのではなうでしょうか。（記 河瀬）



看護師より



8月25日(木)健康診断の報告です。

今年度より健康診断の会場を2階フロアから3階フロアに変更して行いました。利用者様、職員総勢50名近くが約3時間のうちに受けすることが出来ました。利用者様には1名に対し職員1名を配置し、介助の仕方なども事前に把握し、準備をして当日を迎えました。

1便グループでは通所バス到着後、9時40分位から開始しました。順番を決め、天板など健診に必要ではないものについてはエレベーターに乗る前に外し、そのまま健診会場にいく人、2階に上がり順番を待つ人と分かれ、職員も利用者につく人、待機、終わった人を2階フロアで受け入れる人に分かれて対応しました。コロナウィルス感染症対策のためグループ・フロア間の移動がなかなかできなかったため、今の3階フロアをジッと見たり、健診のスタッフの方等いつもと違う雰囲気に緊張したりする様子が見られました。

2便グループはバスが到着後、3階に全員上り、順番に行ないました。いつも過ごすフロアではありますが、健診会場となると緊張した様子の方もいらっしゃいました。昨年度と比較すると2便通所バス到着後よりフロアの移動なく受けることが出来たため、時間に余裕がうまれ、ゆとりをもって動くことが出来ました。健康診断のスタッフが片づけをするまでには終了しました。

ご家族の皆様、検尿などご協力も有り難うございました。

今後も利用者様の安全に配慮し、健康診断を行っていきたいと思います。（記 新垣）





令和4年7月7日(木)に宮林玲子様の還暦の祝いを執り行いました。

今年度もグループのみの開催になりましたが、代表の利用者様からの祝いの言葉や記念品贈呈では、花束や記念品の他に園で育てたヒマワリをブーケにしてお渡しました。父母の会様から頂いた記念品やメッセージを主任が代表して代読、お渡しすると、「まだあるの～」とたくさん出てくることに驚いた宮林様が嬉し涙を流される場面がありました。

2便グループからのビデオレターや退職した職員、ゆかりのある方からのお祝いビデオレターを流すと会場のあちこちから「懐かしい～」「○○さんだ～」などの声が聞こえてきました。

還暦者の挨拶では、「今日は楽しかったですか?」「お仕事頑張りますか?」「通所は好きですか?」と妹様からマイクを向けられると宮林様は「うん!」と元気な声で返答されていました。お母様は玲子様のお祝いに嬉し涙を流され喜ばれていらっしゃいました。

短い時間ではありましたが、宮林様、御家族様、利用者様、職員にとって、とても素敵な会になりました。

宮林様、還暦おめでとうございます! (記 柳川)



七イベントをやりました!

6月27日～7月8日まで、七イベントを行いました。今年は笹のご寄付を頂き、例年より長くイベントが行えました。ありがとうございます。

各グループで短冊に願い事を書いて貰い、玄関に飾りました。コロナ禍で交流できない他グループの仲間たちの描いた短冊を見て、笑ったり、関心したりしていました。飾りも各グループで作成し、こちらも「向こうのグループはこんな飾りにしたんだ!」「飾りが増えたね。位置も変わって見やすくなった」と利用者様の皆さんから楽しそうな声が聞こえてきました。(記 荒井)



1便グループより

グループ編成が行われて半年を迎え、利用者様の皆さん、職員も環境に慣れて明るい声と笑顔が増大しています。

作業チームは、ルールについて話し合いを持ち、「部品が汚れたらいけないから、マスクをして手を洗うのは当たり前!」という言葉もありました。また、困った時には職員の名前を呼んでくれる機会が増えています。

体感チームは、椎茸や、野菜などが大きくなる様子を観察し、収穫をして給食にも出してもらい、夏を野菜で感じることができました。

これからも利用者様と一緒に、明日が楽しめるような活動をしていきたいと思っています。(記 高橋)



2便グループより

お盆休みが明け、利用者様はグループでの過ごし方に慣れてきて自分らしさをアピールし始めています。

一つのグループで毎日作業と活動が同時に展開されている事で、活動時間の前半は作業に取り組み、後半から活動に参加するといった方、通常は作業をメインにしているが、お気に入りの活動プログラムの時はそちらに参加する方、じっくりと身体を休めることを積極的に行っている方など、自分にとって何が良いのかを考えながら過ごす姿が見られてきています。

今後は、皆さんと未来について想像をしながら、その時までに身に着けておくと良いことを共に探り、一緒に取り組んでいければと考えています。(記 堀内)

